

学校教育目標	夢と志を持ち、未来を拓く人間の育成	経営理念	ミッション:伝統に一層磨きをかけるとともに、安心と活力のある学校づくりを推進し、保護者・地域に信頼される学校の創造 ビジョン:さすが西中 行きたい 行かせたい やりがいのある学校
--------	-------------------	------	--

評価計画						自己評価				学校関係者評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
教育課程・学習指導	1	基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身に付ける。	生徒の主体的な学習を促す授業改善を推進し、学力の定着を図る。(重点)	・西条中授業スタイルの確立・徹底 ・「課題発見・解決学習」を取り入れた研究授業の実施(1人1年1回以上) ・補充学習の充実	①生徒の授業に対する満足度の割合(%)	90%	93.9%	96.2%	107	4	ICTの活用など全教職員が意識統一して授業改善に努めたことで、生徒の満足度を上昇させた。	A	電子黒板の活用が効果的であった。	・新学習指導要領実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
			宿題・自主学習ノートのバランスの取れた家庭学習の習慣化を図る。	・宿題・自主学習ノートをやらせきる指導の徹底	・家庭学習を1日1時間以上する生徒の割合(塾を除く)(%)	90%	76.3%	80.1%	99	2	1年生 国語109、数学122、理科104、英語102 2年生 国語102、数学106、理科93、英語104 ・学年や教科間の差が認められる。効果的な指導の在り方を全教職員で共有する必要がある。	B	2年生の理科の対策が必要である。	・個に応じたきめ細かな指導により、一人一人の課題に応じた指導の手立てを工夫し、資質・能力の育成に努める。
			読書活動の推進を図り、読書への意欲を培う。	・毎日の朝読書の実施 ・読書ノート・読書マラソンの実施	・1ヶ月に1冊以上読書する生徒の割合(%)	85%	89.6%	86.8%	102	3	・学習習慣が身に付いていない生徒は固定している。該当生徒への指導とともに、保護者の理解・協力を得ることが必要である。	B	改善方針の個々の実態に応じた…は具体性に欠ける。具体的な姿を明記するほうが良いと思う。	・個々の実態に応じて自主学習ノートを計画的に取り組ませ、授業の復習として位置付ける。また、毎日の読書活動の徹底を図り、図書委員会を活用して、生徒へ読書啓発をさらに進める。
			生徒の自己実現を支援する進路指導を実施する。	・3年間を見通した進路に関する学習の計画的実施 ・キャリアカウンセリングの視点を踏まえた進路相談の継続的实施	進路未決定者の人数	0人			50	2	・毎日の読書活動の一層の充実を図る必要がある。	B	さらに読書活動に力を入れてください。	・学習センターとしての図書室の機能強化を図る。また、毎日の読書活動の徹底を図り、図書委員会を活用して、生徒へ読書啓発をさらに進める。
生徒指導	2	豊かな心・健やかな体とたくましく生きる力を育成する。	組曲『西條』のさらなる伝承・発展により、学校を誇り、郷土を愛する心を育成する。	・組曲『西條』振り返りシートの活用 ・全校体制による組曲『西條』の新たな創造 ・広報活動のさらなる工夫改善	・組曲『西條』で達成感・充実感を持つ生徒の割合(%)	95%	95.2%	98.2%	103	3	・各部門で準備や練習を重ねるごとに、生徒は自信をつけた。年に数回ある組曲の発表等を通して、一体感や達成感を味わうことができていた。 ・今後の持続可能な発展のための組織づくりを進める必要がある。	B	持続可能な意欲ある実践力を養ってほしい。	・先輩から引き継いだ技や精神を下級生へつなぐことを意識させるとともに、より生徒が主体となるような指導を行う。 ・継続的な発展を実現するため、職員の組織的な指導体制を確立する。
			不登校及び不登校傾向の生徒への取組の充実を図る。(重点)	・出欠黒板の活用と定期的な生徒指導委員会の開催(情報の共有化) ・早期対応(家庭訪問及び電話による連携の充実) ・スクールカウンセラー、心のサポーターや関係機関との連携	・不登校生徒の割合(%)	1.5%以下	1.6%	2.9%	52	2	・早期対応(家庭訪問、スクールカウンセラーの活用、関係機関との連携など)の中で、学校と保護者が方向性を共有して取組を進めることに努めた。	B	関わりきる進路保障をしてください。 1-2月の出席状況を明らかにし、評価指標を工夫する必要があります。	・引き続き粘り強く家庭と連携し、登校を働きかけよう。 ・生徒の状況を早期に把握し、担任が抱えこむのではなく、組織的な対応に努める。
			部活動の充実を図り、目標に向けた行動力を育成する。	・部活前集合の実施 ・顧問の積極的参加 ・活動内容の工夫と充実	部活動に対する生徒の満足度(%)	90%	89.6%	91.0%	101	3	・生徒に常に明確な目標を自觉させて意欲的に取り組ませる必要がある。	B	目標・夢に向かって努力する姿勢を持たせる。	・引き続き、生徒に明確な目標を設定させて取り組む。 ・各部の取組の好事例を交流して互いに取り入れるなどして活性化を図る。
			「誇れるもの 3つの実践」のレベルアップが図れる生徒を育成する。(重点)	・HRや部活前集合や全校集会・学年集会・部活動での指導と評価 ・生徒会・教職員・保護者による挨拶運動の実施 ・全校での無言清掃指導の徹底 ・SNS使用に関わる継続的な指導	①学校内外で挨拶を実践した生徒の割合(%) ②無言清掃を実践し、整理整頓に努める生徒の割合(%) ③誰に対しても思いやりのある言動を実践した生徒の割合(%)	90%	95.8%	96.6%	107	4	・個人でも自信をもって元気な挨拶のできる生徒が増加傾向にある。	A	校内でも地域でも元気な挨拶ができるよう継続して指導をお願いします。	・集団だけでなく個人としても元気な挨拶ができるよう、さらなる啓発を進める。
						90%	93.3%	95.8%	106	4	・自主的に考えて工夫した清掃に取り組む生徒が増えており、学年や全校の場で評価している。	A	継続して指導をお願いします。	・清掃の取組から自分の身の周りの環境改善につなげさせる。
働き方改革	3	時間外勤務を縮減する。	時代の変化に対応した教職員意識の醸成を図る。	・校内研修(入退校記録、部活動指針)	・確実な記録実施率(%)	90%	100.0%	100.0%	111	4	管理職によるきめ細かな働きかけにより、確実な記録実施が定着した。	A	やる気意欲ある教育実践を行ってください。	・指示や声掛けの充実、月別結果を数値として可視化することにより、意識の向上を図る。
			校務全般におけるスクラップ&ビルドを推進する。	・業務削減に向けての具体的な洗い出しを行う。	・具体的な提案ができる職員	100%	90.0%	100.0%	100	3	校内研修、分掌会議等で業務削減を意識した意見が増えた。	A	事務職員の知恵を生かしてください。	・ボトムアップとトップダウンの両方向で業務削減に向けた取組を推進する。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 2...目標をやや下回って達成
 3...目標どおりに達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
 A...とても適切である
 C...あまり適切でない
 B...概ね適切である
 D...全く適切でない